

m.

That's Mine. It's Mine

## GEO協議会だより

編集・発行：Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会事務局

審査員来たる！ Global Geoparks Network

12月4～6日に、ユネスコ世界ジオパーク現地審査員のパブロ・リバス・パロモ博士がMine秋吉台ジオパークを視察されました。パブロ博士はスペイン出身の地質学・環境学者で、今回の視察はユネスコ世界ジオパークを目指す上での活動について、現地審査員の立場から意見をいただくために行われました。5日(水)は、午前にはジオガイドによるツアーを体験していただき、午後には市内数ヶ所で地域の方と交流していただきました。

それを踏まえて、翌6日(木)には事務局との意見交換を行いました。意見交換での議題について一例を挙げると、地域の方の活動や看板の整備状況などを評価していただいた一方で、環境保全を考慮した観光洞の管理・運営方法や、カルスターや秋吉台科学博物館における来館者への効果的な展示手法など、アドバイスをすることもできました。

今後も、パブロ博士のようなユネスコ世界ジオパーク関係者の様々な意見や感想を取り入れながらより良いジオパーク活動を展開していきます。



## 「先進地・室戸ユネスコ世界ジオパーク視察」

平成30年11月28日～30日

太平洋に向かって、握手をするように迫り出した室戸岬。大地の変化や風土を受け入れ、人々もお互いに手を差し伸べる場所。

室戸は2011年に世界ジオパークネットワークへの加盟が認定されました。Mine秋吉台ジオパークにとって、先輩である室戸の人々の営みに触れ、考え、感じ、学ぶことができました。研修に参加したガイドのご報告をお読みください(ウラ面)。

高知県

変動帯に生きる  
室戸びと…



←岬の先っぽ。ここが大地創造の最先端！しましま模様の岩があちこちに見られます。これは比較的新しい付加体で、今から数千万年前に海のプレートの上に積もったものが、陸のプレートの下にくっついたものです。秋吉台の石灰岩も同じ付加体ですが、見た目が全く違います。

なぜでしょう?? こたえはウラ面へ



秋吉台

## 朝日を拝むついでに

Mine秋吉台認定ジオガイド

北村 ひかり



室戸岬の海岸沿いにある宿に宿泊しました。女将さんから「朝食前に辺りを散策してみてください」とだるま朝日を紹介されました。実はこの女将さん、ジオガイドだったのです。

時間のない観光客には、早朝の時間にジオツアーを案内するそうです。興味のある方がいればガイドも付けます。『朝日を拝むついでに』という切り口でジオに興味をもってもらうのは面白いです。たいていの観光客は「ジオパークって何だろう」で止まったままです。そんな人たちに「面白い」と感じてもらったり気付けばジオを体験してもらったりする仕組みが室戸にはありました。さらに今回関わった方々から地元への愛と誇りを、ひしひしと感じました。だからこそ室戸が好きになりました。私も自分が出来る範囲でジオパーク活動に関して、訪れた人に美祢を好きになってほしいと思います。

## 活きたガイドをしたい！

Mine秋吉台認定ジオガイド 中野 美都子

室戸のジオガイドの方は、マイクを使わずに、お客さんとコミュニケーションをとる「インタープリテーション」という手法を実践されています。しかも稼げる質の高いガイド。ここまでくると私には難しいと感じてしまいますが、室戸のガイドさん達はどなたもガイドを楽しみ、生き生きとされています(私はいつもハラハラドキドキ)。また、ガイドをすることでいろんな体験ができるとも言われていました。それは私も少しずつ経験してみています。

ガイドをして下さった方で、「お龍さん※」を彷彿とさせる方がいらっしゃいました。土佐弁を交え、歯切れの良い語り口で話される姿が現代のお龍さんを見ているようで小気味良かったです。

私も、気持ちもガイドも一本筋の通ったガイドを目指したいと思います。

※お龍さんは坂本龍馬の奥さんです。



## お客様の興味をそそる

秋芳洞アテンダント  
(認定ジオガイド)

櫛崎 晃世



日本海、瀬戸内海に囲まれた山口県、山に囲まれた美祢市と違い、室戸市は広い太平洋に面しており、それだけでも新鮮な気持ちを抱きました。

室戸ジオパークの拠点であるジオパークセンターは、来訪者の興味を引くいろいろな工夫が施されており、室戸市の地形、文化、産業などを3Dメガネやタッチパネルモニター、部屋いっぱい広がるスクリーンなどを有効に利用して、判りやすく展示されていることに感心しました。

室戸岬をジオガイドして頂いた際には、「アコウ」という太い根が岩に絡みついている大きな木の下で静かに目を閉じ、木漏れ日と共に大自然の音や、においを体全体で感じる事ができました。

室戸ジオパークを訪れたことで、お客様を案内するだけでなく、お客様の興味をそそるような工夫や努力などが必要であると感じました。

## 生きている空海

認定ジオガイド養成講座受講者 山田 富郎

室戸ジオツアー最終日、行当岬近くにある不動堂を案内して頂きました。「ここはあまり解説しないのですが・・・」と前置きがあり、上部がへこんでいて『空海の足跡』という伝説が残っている岩を見せてもらいました。記録に残っていないため、あくまでも語り継がれたことですが、ここを大事にしてきた人々が、自然との共存を空海を通じて感じたのだろうと想像しました。

神社や祭事の根底には自然に対する感謝、敬意、畏怖などがあり、その気持ちや言葉では表せない現象を『神』と呼んだ場合もあります。科学では解明出来ないこと、伝承として語り継がれたことから、人々が自然や大地との共存を想像するのも「ジオ」なのかなと思いました。



室戸岬

＝重たい砂と、ちょっと軽い泥が交互に重なりました。それが地球の活動で押されて陸にくっついた(付加した)ので、しましまの岩(砂岩と泥岩の互層)になりました。

秋吉台

＝サンゴが積み重なったものが陸にくっついたので、白くてきれいな石灰岩になりました。